

藤沢市民病院からのお知らせ

2023年4月から、「神経内科」は「脳神経内科」に診療科名を変更いたします

「神経内科」は心の病気を診る「精神科」「神経科」「心療内科」と名称が似ていて、患者さんが混同することなどから、日本神経学会が科名の変更を推奨しています。脳神経外科の内科側の受け入れ先という位置づけが明確になることにより、患者さんにとって適切な医療機能につながるようになります。そこで、藤沢市民病院では、「神経内科」を「脳神経内科」に変更いたします。診療内容につきましては、これまで通り脳梗塞を中心に、脳、脊髄、神経等の疾患を中心に対応させていただきます。

なお、「紹介患者診療予約申込書」については、2023年4月以降、診療科名を修正しホームページに掲載する予定ですが、これまでの「紹介患者診療予約申込書」をご使用いただいても構いません。

「紹介患者診療予約申込書」のダウンロードはこちら
(2023年4月3日以降)

藤沢市民病院 医療関係者向けサイト > 地域の医療機関の方 > 診療予約の流れ



2023年4月から、「腎臓移植内科」と「腎臓移植外科」を新設いたします

こちらは別にチラシを同封しておりますのでご覧ください。



高気圧酸素治療とは

大気圧よりも高い気圧の状態、空気よりも高い濃度の酸素を吸入する治療法です。高気圧酸素療法装置というカプセル型の装置に入り行う治療で、装置内の気圧を2気圧、およそ水深10m位の気圧まで上げた状態を維持することで、体内には通常の15～20倍の酸素が取り込まれます。

【適応疾患】

保険適用疾患は多数ありますが、疾患毎に治療限界回数が異なります。現在は突発性難聴患者さんを中心に運用を開始しており、1週間程度の入院で4-5回を基準としております。

(安全性を考慮し、保険適用疾患の場合でも、安全性が確保できない場合は治療適応外とさせていただきます)

【紹介方法】

突発性難聴が疑われる場合は、まず耳鼻咽喉科外来にお電話をください。耳鼻咽喉科外来で診察させていただきます。





高気圧酸素治療の紹介

藤沢市民病院

地域医療連携だより

2023年3月
Vol.51

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1
Tel 0466-25-3111(代表)
Fax 0466-25-3182(直通)



院長退任に当たって

連携登録医の皆様方には、日頃から当院の運営にご協力いただきまして感謝申し上げます。私が藤沢市民病院の第8代院長に就任したのは、2018年4月のことでした。以来5年が経過するところですが、今年度末を持ちまして定年退職となりますので、これを機に、この5年間の主な出来事を振り返ってみたいと思います。

2018年4月には、時代のニーズに合わせて乳腺外科、救急外科を新設しました。7月には構想から完成まで10年以上の歳月を要した、東館の建て替え再整備事業が完成し、竣工式典を盛大に行うことが出来ました。公共交通機関としてのバスが病院玄関前から発着するという、長年の夢がかなった瞬間でした。またこの年から地域医療機関との連携をより強化するために、従来の登録医との地域連携懇話会を連携登録医総会に名称変更し、当院と地域医療機関との連携強化をアピールする場として力を入れてきました。2019年は、5月1日に年号が平成から令和に替わりましたが、8月に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。現在泌尿器科、外科、産婦人科が使用していますが、需要は増える一方で、将来的には2台目の購入も必要になりそうな勢いです。11月には地域連携室から切り分ける形で外来予約センターを開設し、専用の電話回線を設置しました。2020年1月には県立がんセンターを拠点とした、がんゲノム医療連携病院の指定を受けました。2月には、現在も続くコロナ禍の発端となったクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」事件が起こりました。以後約3年間、当院は神奈川県モデルの高度医療機関として、重症から中等症のコロナ感染患者さんを中心に受け入れてきました。コロナ禍ではありませんでしたが、4月には患者総合支援センターを開設し、患者さんの入院退院支援、地域医療機関との連携強化に力を入れてきました。夏には東京オリンピックが延



藤沢市民病院
院長 常田 康夫

期となる中、秋には病院機能評価を受審しました。2021年1月にはコロナの感染拡大第3波に襲われ、重症者が多発し、救命救急センターのICUでは5台のECMOが同時に稼働するという過酷な状況に陥りました。医療逼迫対策として、8B病棟を閉鎖してコロナ患者受け入れ部署への支援を行いました。3月にはコロナウイルスのワクチン接種が始まり、4月にはゲノムセンターおよび腎センターを設置しました。また児童精神科外来を開設しました。7月には高気圧酸素治療を開始しました。腎センターでは2022年6月に第1例目の生体腎移植を成功させることが出来ました。県内では7施設目の腎移植実施施設となりますが、湘南東部二次保健医療機関では唯一の腎移植実施施設であり、また公立病院としては県内初となる快挙となりました。

当院は救急とがん診療を二本柱として病院運営を行っていますが、同時にゲノム医療や移植医療など新たな分野への挑戦も行っております。今後は少子高齢化対策として、この地域における地域包括ケアシステムを形成するため、皆様との更なる連携強化に努めてまいりますので、更なるご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 連携登録医総会（医科・歯科合同）開催報告

新型コロナウイルス感染症の流行拡大から早3年が経過しました。この間、連携登録医療機関の皆様には多大なるご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、2018年から始めた連携登録医総会は5年目となります。本来であれば、連携登録医の先生方にお目にかかって直接意見交換する場にしたい所でしたが、今回もご時世を鑑みWeb講演会（ZOOMウェビナー）とさせていただきます。総会の内容をより多くの先生方にお知らせしたいと考え、講演会の内容を抜粋して掲載いたします。なお、ご参加いただいたのは41施設（44名）でした。

令和4年度「連携登録医総会」
 令和5年2月22日（水） 18:30～19:30
 司会・進行 患者総合支援センター長 山岸 茂

- 開会のあいさつ 副院長 西川 正憲
- 講演
 - 「ロボット支援手術の現状」
消化器外科専門医 森 康一
 - 「当院におけるゲノム診療 ～がん診療を中心に～」
乳腺外科部長 菅江 貞亨
 - 「藤沢市民病院腎センターでの腎移植の取り組みと今後の展望」
泌尿器科専門医 望月 拓
- 閉会のあいさつ 病院長 常田 康夫

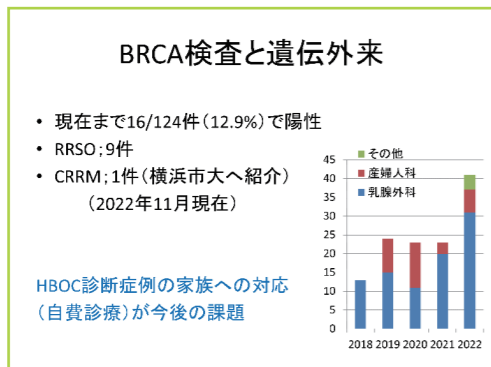


後列左から 山岸患者総合支援センター長・常田院長・石原看護部長・西川副院長・岩瀬診療部長
 前列左から 森医師・菅江医師・望月医師
 (写真時のみマスクをはずしました)

当院におけるゲノム診療 ～がん診療を中心に～ 菅江 貞亨

藤沢市民病院は、がん診療連携拠点病院（高度型）として高度ながん治療の提供に努めています。その中で、2018年7月にBRCA検査および遺伝外来を開設して以来、現在ではがん遺伝子検査、BRCA検査、がん遺伝子パネル検査、NIPTを施行しています。また、検査結果にかかわる遺伝カウンセリング、予防的手術、継続的な検診なども行っています。

来年度は、より多くのご相談に対応できるよう、「受診枠の拡大」「未発症者に対するBRCAに関する検査（自費）」「NIPTに関する環境整備」にも着手していきます。



がんゲノム検査

- 2020年1月 がんゲノム連携病院に指定
- 2020年5月 遺伝カウンセラー招聘（非常勤）
- 2021年12月に1例目（F1）を出検

2022年12月末日までに	
組織検体（F1）	12件
血液検体（F1 liquid）	15件

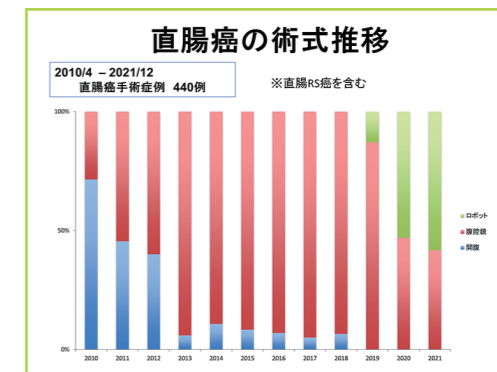
ロボット支援手術の現状 森 康一

日本のロボット支援手術は、2012年に前立腺悪性腫瘍手術が保険収載され、泌尿器科領域で始まりました。2018年には、婦人科領域や消化器外科領域でもロボット手術が保険収載され、日本でもロボット手術が普及していきました。2019年より当院でもダビンチを用いたロボット支援手術を泌尿器科、婦人科、消化器外科領域で実施しております。消化器外科では、直腸癌に対して全体の半数以上の症例でロボット支援手術を施行しており、昨年からは結腸癌に対する手術も保険収載され、ロボット手術の適応を拡大しています。

今後は新たな手術ロボットの出現やロボット技術の進歩に伴い、手術治療は人の技術の進歩のみでなく、そこにロボット技術の進歩が加わることでより良い手術を提供できることが期待されます。

ダビンチとは

- 腹腔鏡手術を支援する内視鏡手術支援ロボットです
- サージョンコンソール、パシエントカート、ビジョンカートの3つから成り立っています

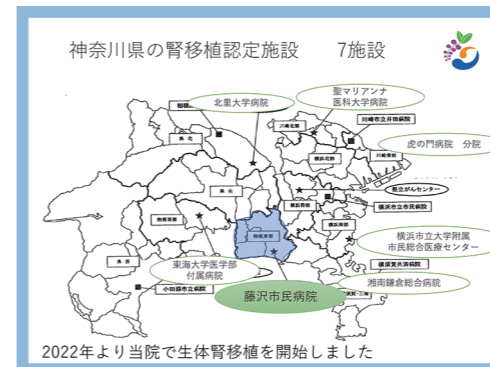


藤沢市民病院腎センターでの腎移植の取り組みと今後の展望 望月 拓

末期腎不全に対する腎代替療法は透析（血液透析と腹膜透析）と腎移植（生体腎移植と献腎移植）があり、患者さんの希望や状況によって治療が選択されています。透析と腎移植にはそれぞれにメリットデメリットがありますが、生活の質と生命予後の点では腎移植が優れているとされています。

当院では2022年6月に生体腎移植1例目を行い、以降も症例を重ねいすれも順調に経過しています。横浜市立大学附属市民総合医療センター泌尿器・腎移植科の協力のもと、腎移植手術時には応援医師も加わり大学病院と遜色のない体制で安全な腎移植を行うことで、これまでは遠方に通院が必要であったこの地域の腎不全患者さんに高度な治療選択肢をご提供します。

神奈川県内には当院を合わせた7施設で腎移植を行っていますが、当院は湘南東部二次保健医療圏では最初の実施施設となりますので、湘南エリアを中心に貢献していきます。



藤沢市民病院での腎代替療法の歩み

- 1972年（昭和47年） 初めての血液透析治療
- 1989年（平成元年） 腎臓科により透析室稼働（4床から開始）
- 1990年（平成2年） 腹膜透析開始
- 2006年（平成18年） 透析室20床に増床

血液透析導入 年間	82名（2020年度）
腹膜透析導入 年間	12名
腹膜透析	約40名が通院

- 2021年 腎センター設立
- 2022年 生体腎移植開始